友史会 2025 年 12 月例会

平群谷の遺跡を歩く

2025 年 12 月 21 日(日)
案内:木村理恵　学芸課主任研究員
行程:近鉄平群駅→長屋王墓→吉備内親王墓→三里古墳→ツボリ山古墳
→平群中央公園(廿日山遺跡・西宮古墳・安養寺瓦窯跡・下垣内城跡・西宮城跡)
→烏土塚古墳→石道標(十三街道追分)→辻ノ垣内瓦窯→勢野東遺跡　解散

[感想文　12 月例会だより]　「雨の平群を歩く」

近鉄平群駅に集合した 12 月 21 日は、朝から終日にわたり雨が降り続く一日となりました。私自身、「歩く例会」への参加は 5 回目でしたが、雨天での実施は今回が初めてでした。橿原考古学研究所附属博物館主任研究員の**木村理恵先生**のご案内のもと、76 名が参加しました。

最初に見学したのは、**長屋王墓**と**吉備内親王墓**です。729 年 2 月の「長屋王の変」後に築かれたと考えられますが、なぜこの場所が選ばれたのか、また周囲の古墳と比べるとやや新しく異質な印象を受けました。両者とも、もともと存在していた 6 世紀前半の古墳が再利用されたと考えられており(長屋王墓は梨本南 2 号墳)、王族墓制のあり方を考えるうえで興味深い事例です。

その後、田園地帯を抜け、地域首長層の墓と考えられている**三里古墳**、**ツボリ山古墳**を巡りました。いずれも印象深い古墳でしたが、とりわけ**三里古墳**では石棚の存在が目を引きました。以前、岩橋千塚古墳群で見たものと比べると石棚は低い位置に設置されていましたが、特異な構造であり、平群氏と紀氏の関係について読んだ文献の内容を思い起こし、なるほどと感じました。平群氏のような内陸部の在地豪族と、紀氏のように海上・広域活動に長けた氏族との協力関係が、ヤマト政権の支配体制を支えるうえで合理的であったという見解には、現地を訪れてあらためて納得するものがありました。**ツボリ山古墳**は、平群谷では珍しい方墳で、南向きに開口する両袖式横穴式石室が良好に残っていました。玄室だけでなく羨道にも刳抜式家形石棺が据えられている点が特徴的です。

続いて、廿日山丘陵にある平群中央公園内に保存されている**西宮古墳**を見学しました。被葬者については、私自身、山背大兄王と信じていましたが、山背大兄王本人、あるいはその直系に比定することについては、学術的には慎重であるべきとの説明がありました。古墳の規模や立地からは、地域首長層クラスの墓である可能性が高いようです。「岩屋山式」横穴式石室をもつ美しい古墳ですが、個人的には、後述する烏土塚古墳の石室の方が好みでした。

平群中央公園で、雨の中やや厳しい昼食をとった後、**烏土塚古墳**へ向かいました。この古墳の保存が「平群史蹟を守る会」創設のきっかけになったと聞いていますが、現在も地元の方々に大切にされ、よく整備されています。普段は立ち入ることのできない石室に入れるの

も、本会の大きな魅力の一つです。今回はツボリ山古墳と烏土塚古墳の両方で石室を見学することができました。烏土塚古墳は玄室の高さが約 4.4 メートルと高く、巨大な天井石をもつ迫力ある石室が強く印象に残りました。

終盤に訪れた**十三街道追分の石道標**は、古代から中世にかけての街道の分岐点に設置されたもので、当時の移動・流通・情報伝達の様子に思いを巡らせました。さらに**辻ノ垣内瓦窯**を見学し、寺院造営を支えた瓦生産遺跡としての性格を確認した後、最後に訪れた**勢野東遺跡**で解散となりました。終日雨天ではありましたが、参加者一同、傘を手に平群地域の古代史を現地で確認する、有意義な定例会となりました。

最後に、丁寧なご解説を賜った木村先生に心より感謝申し上げます。また、準備段階から当日の運営に至るまでご尽力くださった友史会運営委員会の皆さまのおかげで、雨の一日ではありましたが、内容の充実した定例会となりました。あらためて深く御礼申し上げます。

愛知県刈谷市　冨安斉

[記録写真]

平郡駅

ツボリ山古墳石室

烏土塚古墳石室内

三里古墳石室見学

勢野東遺跡の石碑

説明される木村先生